

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	20047
課題名	重大診断情報伝達漏れ防止システムの有用性に関する研究
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2023 年 3 月 31 日
研究の対象	2019 年 7 月～2021 年 6 月に当院で CT・MRI 検査及び病理（組織診・細胞診）検査を施行された患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：読影レポートおよび病理報告書の処理状況） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（）
研究の意義、目的	近年、画像検査結果や病理検査結果の見落としや患者さんへの検査結果の伝達漏れにより、患者さんの予後に影響を与えることから全国的に問題になっており日本医療機能評価機構からも数度にわたり注意喚起が発せられています。本学においても、同様の事例が数件報告されていることから、本研究により、本学により開発されたシステムの有用性が確認できれば本学においても社会的にも意義深いものであると考えております。
研究の方法	本学が(株)医用工学研究所と共同開発した「重要事項伝達漏れ防止システム (AiR : AMU Information Rescue)」（2019年8月 本学 知財委員会により職務発明として承認済み）では、各報告書の確認、伝達状況をステータス管理を用い管理しております。このステータスは、”未読” ”既読” ”説明済” ”承認” となっており、ステータスの進捗状況により、電子カルテシステムログイン時と患者カルテ展開時に主治医に対し対応を行うよう注意喚起を行っております。本研究では、この各ステータスへの推移期間を時系列で観察することにより、本システムの有用性を検討するものです。なお、本研究で使用するデータには個人を特定できるデータは含まれておりません。
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会する場合の連絡先：</p> <p><b>【研究責任者】</b>  旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1-1 旭川医科大学 旭川医科大学病院  経営企画部 准教授 谷 祐児 TEL:0169-69-3560</p>